

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471300105		
法人名	医療法人 大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎(Ⅱ)		
所在地	大分県由布市挾間町古野254番地3		
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果市町村受理日	令和5年8月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、自然に恵まれている場所にあり、当施設から、由布・鶴見岳等の美しい景色が見られます。
 2、併設の診療所並びに近隣には大学病院があり、医療施設は充実しております。
 3、当施設内での行事等を行ったり、現在はコロナ禍にて自粛しておりますが、隣接の法人施設での行事参加・交流など、少しでも充実した生活が送れるよう心掛けております。
 4、現在コロナ禍にて行えておりませんが、当地域での交流会などの参加、並びに散歩時等の当地域内での住民との挨拶を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・法人が医療機関であるため、健康管理や医師、看護師とも連携がとりやすく家族の安心につながっている。
 ・地域の区長や副区長が職員の夫であったり、法人の相談員であることで、何かにつけて地域との関係が図りやすくなっている。
 ・ベテラン職員が多く管理者とも意見交換しやすくコミュニケーションが取れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人一人の個性・性格を尊重し、家庭的で温かい生活が送れるように職員日々努力しております。それと共に地域と共に成長でき、共存・共栄が図れる施設を目指していきたくと考えております。	理念は「地域に密着して元気に明るく過ごしましょう」で廊下に掲示している。地域とはコロナ禍でなかなか思うようには交流は難しいが、区長とは何かできることはないかと話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設は周辺地域の老人会に加入しておりますが、現状コロナ禍にて行事等があまり行われておらず、コロナ禍落ち着けば参加も検討しておりますが、今も見合わせている状態が続いています。現在当該自治区とは運営会議を通じ情報交換をし対応に努めている状態です。	法人内の相談員が地域の区長代理であることや、職員の夫が区長なので何かと連携がとりやすく、情報交換が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を通じて入居者家族や自治区役員・自治委員などに働きかけをし、各地域の高齢者家族の生活等の情報収集し、その内容を検討し可能なものは、当施設に還元・実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、二ヶ月に1度開催しており、コロナ禍の状況を見て外部(市・地域包括)の参加を入れております。ちなみに、参加困難な場合は、後日ファックス通信などで対応しております。	毎回集まれる人だけで開催できている。ほかの人には会議内容をファックスで送り、意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人を含め、定期的に市の担当者と連絡し、運営上の悩みから、小さなことまでご相談をしアドバイスを頂いており、現在もコロナ関係にてなにかあれば連絡をし、対応に努めております。	運営上の悩みを相談したり、コロナ対応などでアドバイスを受けていたりして、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことなく出来る限り自由かつ安全に生活できるように常時務めております。同時に当法人の内部研修などに参加し、各職員に情報を共有し身体拘束のない生活を目指しております。	法人内の研修があり、何が身体拘束に当たるのか理解している。元々アパートだったので夜間は1階だけ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常時入居者に対しての身体・精神的な虐待が内容対応に努めております。その件に関しても研修などで職員間の情報の共有に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では事例がないが、内部研修などで認識を深め、必要な場合何時でも対応・支援が出来るような体制になっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時から契約まで丁寧な説明を併設相談員を交えて対応し、個々に合わせた対応を心掛けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在新型コロナ拡大防止の為面会制限を行っておりますが、定期的なお手紙や時折各家族へのお電話等にて、各自のご意見等をお伺いしております。その中で重要なご意見等がありましたら、改めて話し合いをし、幹部等に報告できる体制で行っております。	2か月に1回写真とともに利用者の様子を報告している。電話で状況を知らせる時には家族からの意見を聞くようにしている。意見があればほかの職員とも相談し対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在各種会議をコロナ禍の状況に応じて行っており、重要な情報等は、各部署にて情報の共有に努めております。重要な意見等があれば、再度検討し都度幹部等に報告・相談にて対応して行きます。	管理者とは話しやすい状況であるので、何かにつけて言いやすい。Wi-Fi設置の提案やエアコン、洗濯機の修理についても意見があり、上司と相談した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	引き続き今年度もコロナ拡大防止にて法人全体会議は見合わせており、就業環境等については都度各部話をまとめ、幹部等との話し合いを設け対応に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時については、法人での研修が実施され段階に応じた研修を行っております。また、月一回の内部研修報告等で情報を共有し、一つ一つの課題についてのトレーニングを行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も引き続きコロナ拡大防止の為近隣同業者との交流を見合わせており、今後の状況次第で交流等を検討したいと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネからの情報以外にも改めてご家族様や利用者本人からの情報を得よう努めております。また、入居時の不安や疑問等があれば、都度話し合いの場を設け、不安等を取り除ける様相談員と協力し快く入居できるよう対応に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の施設見学を経て、納得のいく入居の運びとなっている。また、当法人・当GHの取り組み内容を説明し、入居者・家族様の不安・要望を聞きつつ発展的な信頼関係を築ける様心掛け対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容から、ニーズを抽出し、問題点や不安・悩みを聞き出し、問題の軽減に努めている。また、今後のサービス内容についても、その都度本人・家族に相談をし対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の思いを大切にしながら、人生の先輩であることを忘れず常時対応に努めております。同時に入居者・職員が互いに尊重しあいながら少しでも良い生活が出来るよう心掛けております。また、日常において入居者の新たな発見があればさりげない支援にも取り組んでおります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話・定期的なお手紙にて利用者様の現状を報告しともに支援していく関係を築いております。また、コロナ禍の状況により面会の緩和や行事の施行などの検討をしていく考えであり、1日でも早いコロナ禍の終息を願っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在もコロナ禍により、家族様などの面会制限を行っておりますが、入居者様より、家族・友人等への連絡を希望した場合には、電話・手紙などで支援できるよう努めております。	介護度の軽い方が多く、自分から友達に電話したいとか、かかってきたりしている。家族とはガラス越しでの面会が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や過去の生活歴を把握し、ホーム内で入居者同士が気軽に話せるよう職員が支援したり、ゲーム交流などを計画し対応に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様には家庭内での介護についての悩み・相談等あれば当GH及び当法人内の相談員にお気軽にご連絡くださいとお話しし、継続的な関係が続くよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前等にご家族様から本人様のお話を聞いたり、入居者との交流を図りながら本人の思い・意向の把握に努め、それを基にフェイスシートに記入し対応の参考にしております。また、利用者の把握が困難な場合は、日頃の支援等を含め表情や反応で探り対応しております。	入浴時や1対1の時にはいろいろな話をしてくれ、時間をかけてコミュニケーションをとっている。気づいたことは記録に残し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者様やご家族様より、過去の生活歴や生活環境、趣味などを聞き、その利用者にあった生活が送れるよう支援・援助に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の記録や申し送りにて各入居者の把握に努めており、それを基に各入居者の現状を見て検討しながら対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングやカンファレンスを基に利用者・家族・職員の意見や意向などを取り入れそれを基に介護計画を作成し、全体での共有の把握し日々の対応に努めている。	定期的にモニタリングを行い、サービス担当者会議を開き、状態の変化により見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動記録に入居者の24時間の変化や、介護計画に沿った実施記録を記入している。また、その情報を共有し、計画の見直し等に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には複数の施設があり、各事業所と連携を図り、支援等に努めている。また、各家族とも都度連絡し、よりよい関係が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当法人は古野自治区との親交が多く防災協定を結んでいたり、多くの行事に参加しながら地域との関係を深めるように努めている。また、当地域の消防・警察なども協力関係を築いており、特に消防とは、定期的な防災訓練にて協力関係築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体である川崎内科が担当し、当GHの定期往診や急患等の対応をし、利用者・家族の信頼を得ている。また、入居前に通院などしていた医療機関や専門医の受診を希望した場合、当内科医師との相談の上柔軟な対応を行っている。	入居時に本人、家族の希望を聞き、法人内の訪問診療を受けている。他科受診の際は家族の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当GHは医療法人運営の為併設内科看護婦が健康管理などの対応を行い、利用者への対応・連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関との連絡については当法人が内科を運営しており、迅速な対応が可能である。また、入院先の医療機関の主治医・看護婦との連絡や申し送りなどの連携を密にとり対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状が悪化した場合や、終末期に関しては、その都度改めてご家族様と医師・相談員を交え今後の方向性などの話し合いを行っている。また、該当利用者の状態を常時把握・支援等を行い、内科医師・看護婦と密に連絡等をし対応に努めている。	入居時に家族に説明をするが、重度化した時に改めて家族や医師と話し合い、希望があれば看取りも行う。かかりつけ医が法人内の医師なので密な連携がとりやすい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の備えとして当法人のマニュアルを常時しており、内部研修や実践を通じ随時対応が出来るように努めている。また、各部署にも連絡し、協力・支援できる体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	古野自治区と防災協定を結んでおり、災害時には協力を得られるようになっている。また、消防の協力の基避難訓練も当法人で定期的に行っており、速やかな避難が出来るよう努めている。食事備蓄については当法人と併設厨房と契約している会社と協定が結んでおり、災害などの時はすぐに支援できる体制が整っている。	自治体と防災協定を結び、災害時の協力体制が整っている。備蓄も整備されている。近隣に住む職員もいて安心につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はGH全入居者を尊重し常にプライバシーに注意し対応している。また、全入居者の個人情報についても研修もそうだが、常時外部に漏らさぬよう全職員注意している。	定期的に内部研修を行い、個人情報の保護には気を使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個々の性格に合わせた対応に努め、自我が難しい利用者に対してはご家族様、外部等の協力にて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自全体的なリズムはあるが、各入居者のその日の気分や体調により、自室で過ごしたり、ホールなどでレクをしたりなど本人の希望に合わせた対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常時身だしなみには気を遣っているが、理美容については、現在もコロナ禍の為、外部依頼の散髪などは見合わせており、出来る範囲での対応に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は明るい雰囲気や常時心掛け対応し、入居者が早く食事ができるよう各自の好き嫌いや嚥下状態などを把握し、都度併設栄養士と連携し支援している。また、食事準備や後片付けに関しては入居者の状況に合わせて対応している。	ごはんのみそ汁は事業所内で作り、おかずは法人内の厨房で作っている。スイーツデーもあり、食べたいものがある時には栄養士に相談している。利用者から作り方を教わることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の1日の栄養・水分摂取量などを基に当法人の栄養士が献立を作成し、都度利用者の好みや希望を入れつつ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や有する力を考慮し、活かしながらい、出来ない人には口腔ケア・介助を行っている。また、月1回の口腔ケア研修に参加し、口腔ケアに活かせるところは活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを職員間で共有・把握し、それぞれに合った対応を行い、常時プライバシーに注意して対応している。	利用者全員が自室のトイレを利用している。ポータブルやリハパンの人もいるが自分で管理できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行いここに合わせた生活や軽度の運動等を行っている。また、排便困難等の方には併設医師と相談し、処方薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の要望に応じて常時入浴が可能である。他にも汚れが気になった時など汚染状況に応じて入浴などの対応に努めている。また、当日の体調や気分に応じて清拭等に変更したりと清潔保持に気を付けている。	週2回は入浴できるよう支援している。希望があれば毎日入浴できるが、嫌がる人もいる。その時は柔軟に対応し、声掛けの仕方や職員を変えて誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室1人部屋であり、生活スペースも確保されており、ゆったりと心地良い生活が出来るようになっている。また、常時、居室訪室・声掛けにて個々の体調や精神状態等を確認し、都度、柔軟に対応・他部署への連携ができる体制である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者全員の服薬状況を把握し、服薬の際には毎日個人記録のチェック表等に記入している。また、服薬についての相談があれば、その都度併設医師に相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴や趣味などを把握し、個々の身体状況に応じて役割をお願いしたり、レク等と一緒に رفتりなどの支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在もコロナ禍において基本外出等は規制・見合わせており、散歩については、併設医師等と相談し注意して行っている。外出については、入居者の強い要望があれば、併設医師等と相談をし、支援を検討するが、現状のコロナ禍にて難しい状況である。	法人内の散歩は出来ているが、まだ外出は出来ていない。人込みを避けお花見に出かけたいと計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理簿を作成し、入出金時は記録している。また、職員が買い物代行した時は、事務と連携し注意し対応に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より、要望あれば、手紙・電話の支援を可能な限り対応・支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの食堂にて季節の花を飾ったり、季節ごとの飾りつけなどその日が少しでも楽しめるような対応を可能な限り行っている。また、外から高崎山や由布岳から、近所の大木などが見え、四季の彩も楽しめる。	リビングの壁面には端午の節句の飾り付けがあり、季節を感じる工夫がされている。窓からは高崎山や桜並木が見渡せ、四季折々の景観が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、椅子や共同テーブル、テレビなどを設置し、空間内で楽しめるようになっている。また、ソファも設置し入居者と楽しめるスペースである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々三階建てのアパートだったので各居室には、洗面台やトイレなどが設置されております。入居者の中には仏壇や使用していたタンスなど馴染みの物を持ってきている方もおり、すぐに当施設に馴染める方もおられます。	それぞれの居室にはテレビやたんすが持ち込まれている。また仏壇には華やかなお花が飾られ、まさしく自宅といった感じになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、風呂場やトイレなど手すりや踏み台などを用意しております。また、ご意見あれば他の場所にも手すりなどの介助器具の設置も検討・設置の対応も行っております。		